

## 手話との出会い

中 二一

みなさんは、「手話」で自分の気持ちを伝えることのすばらしさを知っていますか。耳の聞こえない人も、歌を歌うことができるということを知っていますか。

私が「手話」に出会ったのは、小学校四年生の冬のことでした。それは、テレビに映った好きな芸能人が「手話」をしているのを見たときのことです。隣に映る耳の不自由な子供たちの優しい笑顔が印象的でした。手で会話することのすばらしさを知った瞬間でした。そこで、私も「手話」を覚えようと思いました。しかし、難しく大変そうだなと思いました。また、小学校四年生だった私にはどこでどう覚えたらよいか分からずには過ぎていきました。小学校六年生の春、私の好きな漫画に「手話」を使うシーンが出てきました。それからです。「手話」ということを意識すると、いろいろな場面で「手話」が使われていることに気が付かされたのです。毎日見るテレビのニュースや

天気予報でも映し出されています。先日、近くのショッピングモールに行ったときにも、「手話」で会話している人を見かけました。中学生になっていた私は、そのときすぐにショッピングモールの本屋さんに行き「手話」の本を購入しました。まず、あいさつを覚えました。覚えられたときの達成感をどのように表現したらよいか分かりませんが、私はすぐに家族のもとに行き、覚えてたの「手話」であいさつを試してみました。家族も喜んでくれました。「手話」を覚えたことはもちろんですが、自分で興味をもち、自分で本を買い、自分で努力して覚えたことに対して喜んでくれたのです。

その後、私の家族も私の友達も「手話」に興味をもってくれるようになりました。「おはよう」「またね」など、何気ない言葉を「手話」で表現するようにもなりました。これまで特別に見えていた「手話」が、とても身近に感じられ、好きになっていきました。

去年の夏、テレビで耳の聞こえない子供たちがヲタ芸（アイドルオタクの芸）に挑戦するという企画がありました。もちろん音は聞こえませんが

頼りになるのは、目からの情報やかすかな振動、カウントをとる指のサイン。私たちより大変な環境の中、子供たちは必死に練習し、本番では見事なパフォーマンスを見せてくれました。このことから私は、「努力次第で何でもできるんだ。」と強く思いました。また、「努力は人を感動させるんだ。」とも思いました。

最後に、世界にはたくさんの方がいます。その数だけ個性があるということです。私は、障害は個性だと思えます。そして、人の命は平等です。しかし、生まれた環境は平等ではありません。このような中で、みんなが平等に生きていくに生まれた一つに「手話」があるのだと思えます。私は「手話」のおかげでたくさんの方の勇気をもらいました。努力することのすばらしさを知りました。私は今、好きな歌を「手話」で歌うことに挑戦しています。